

3級損害保険登録鑑定人

保険・一般常識 試験問題用紙

(2024年1月)

注意事項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないでください。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認してください。解答用紙がない場合は直ちに申し出てください。
3. 解答用紙には受験番号、氏名、受験地を必ず記入してください。
受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークしてください。記入漏れや間違った内容を記入・マークすると採点ができませんので、解答した内容はすべて無効（得点なし）となります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出してください。問題用紙は持ち帰って結構です。また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
5. 解答は、解答用紙の該当する問題の解答欄をぬりつぶしてください。
6. 1つの問題に指定数を超えるマークをつけた場合、その問題は0点となります。
7. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用してください。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外（万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等）は使用不可です。
8. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消してください。消し方が不十分な場合には解答が正しく読み取れないことがあります。修正液等、プラスチック製消しゴム以外は使用不可です。
9. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないでください。
10. カンニング等の不正行為があったと認められた場合は、当該試験は不合格とし、原則としてその場で試験の中止と退室を指示され、それ以降の受験はできなくなります。
11. トイレや急な体調不良等を含め、一旦退席された場合の再入室はできませんので、ご注意ください。
12. 試験時間は正味50分です。
13. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
14. 試験時間中の私語は禁止します。
15. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまってください。
16. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいてください。
17. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いてください。
18. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出てください。

マークシート方式による正誤式または選択式の問題です。解答は解答用紙の該当するマークを塗りつぶしてください。

【問題 1】

次の1～8の記述は、火災保険の「物件の種類と判定」について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 神社の社務所、寺院の坊・本堂は、一般物件である。
2. 物件の判定において、工場敷地内にあっても、工場の囲い（塀、垣、柵等）の外に所在し、かつ、その囲いから10m以上の距離にある倉庫は、倉庫物件となる。
3. 農家や漁業者の住宅で、農業用または漁業用の什器、備品、機械もしくは工具を常時収容する場合の建物と家財は、一般物件を適用しなければならない。
4. 物件の判定における「敷地内」とは、特別の約定がないかぎり、囲いの有無を問わず、保険の対象の所在する場所およびこれに連続した土地で、同一保険契約者または被保険者によって占有されているものをいい、公道、河川等が介在していても敷地内は中断されることなく、連続した土地とみなす。
5. 新築中の建物を保険期間1年未満で契約する場合は、住宅物件を適用する。
6. 住宅物件の判定は一つの建物ごとに行うが、単に通路のみに使用される渡廊下で、本屋と共通の屋根を有しないものは、別個の建物として取り扱うことができる。
7. 住宅物件（一般建物）の構造級別において、耐火建築物・準耐火建築物・省令準耐火建物は、いずれもM構造に分類される。
8. 一般物件（一般建物以外の建物）における改築（改装）中または修繕中の建物の構造級別は、改築（改装）前または修繕前の構造級別による。

【問題2】

Aさんは、店舗専用建物に保険金額3,500万円の店舗総合保険契約を締結していましたが、この建物から火災が発生し、同建物に2,000万円の損害を被るとともに、この火災の延焼により、隣家3世帯の住宅建物5棟のそれぞれ一部を焼失させてしまいました。

また、残存物の取片づけのために200万円を支出することになりました。

この場合に支払われる次の1～3の保険金について、下の選択肢から最も適切な金額をそれぞれ1つずつ選び、その記号を答えてください。

なお、火災発生時のこの建物の保険価額は5,000万円とします。また、算出した保険金の額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で答えてください。

1. 支払われる損害保険金は、いくらになりますか。
2. 支払われる残存物取片づけ費用保険金は、いくらになりますか。
3. 支払われる失火見舞費用保険金は、いくらになりますか。

《選択肢》

| | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| ア. 0万円 | イ. 20万円 | ウ. 40万円 | エ. 60万円 |
| オ. 100万円 | カ. 125万円 | キ. 150万円 | ク. 175万円 |
| ケ. 200万円 | コ. 450万円 | サ. 500万円 | シ. 1,000万円 |
| ス. 1,750万円 | セ. 2,000万円 | ソ. 3,500万円 | タ. 5,000万円 |

【問題3】

次の1～4の記述は、住宅総合保険について述べたものです。()内のアとイのうち、最も適切なものをそれぞれ1つずつ選び、その記号を答えてください。

1. この保険では、被保険者の自宅近くの送電線への落雷により保険の対象である電気機器が破損した場合、その波及損害は損害保険金の支払い対象と（ア．なる イ．ならない）。
2. この保険において、水道管または水管の凍結による破裂で保険の対象である建物が損害を被った場合、その損害は損害保険金の支払い対象と（ア．なる イ．ならない）。
3. この保険では、保険契約締結の後、保険の対象が譲渡された場合、その事実が発生した時に保険契約は（ア．無効 イ．失効）となる。
4. この保険において、（ア．総排気量が125cc以下の原動機付自転車 イ．有価証券）は、保険の対象に含まれない。

【問題4】

次の1～4の記述は、「地震保険に関する法律」に基づく地震保険について述べたものです。()内のアとイのうち、最も適切なものをそれぞれ1つ選び、その記号を教えてください。

1. この保険において、建物の主要構造部の損害の額には、損害が生じた建物を原状回復するため地盤等の復旧に直接必要とされる最小限の費用が（ア. 含まれる イ. 含まれない）。
2. この保険において、地震の際に保険の対象である生活用動産を紛失した場合、その損害は保険金の支払対象と（ア. なる イ. ならない）。
3. この保険を付帯することができる保険種目には、店舗総合保険が（ア. 含まれる イ. 含まれない）。
4. この保険において、区分所有建物における居住の用に供されない共用部分の共有持分は、保険の対象とすることが（ア. できる イ. できない）。

【問題5】

Bさんは、自分の住居専用建物と同建物内収容の生活用動産（家財）を保険の対象として、住宅総合保険契約に「地震保険に関する法律」に基づく地震保険契約を付帯して締結していたところ、地震による火災でこの建物および生活用動産（家財）が損害を被りました。保険契約の内容および損害割合は次のとおりです。

この場合に支払われる次の1～3の保険金について、下の選択肢から最も適切な金額をそれぞれ1つずつ選び、その記号を教えてください。

なお、算出した保険金の額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で教えてください。

[保険契約の内容]

| | 住宅総合保険 | | 地震保険 | |
|------|---------|-----------|---------|-----------|
| | 建物 | 生活用動産（家財） | 建物 | 生活用動産（家財） |
| 保険金額 | 3,000万円 | 700万円 | 1,500万円 | 350万円 |

(注) 地震発生時のこの建物および生活用動産（家財）の保険価額は、いずれも主契約である住宅総合保険契約の保険金額と同額とします。

[損害の状況]

| | 建物 | 生活用動産（家財） |
|------|-----|-----------|
| 損害割合 | 40% | 60% |

(注) 建物の焼失床面積は考慮不要とし、建物の損害割合は、地震に起因した火災による地震保険における主要構造部の損害割合とします。

1. 地震保険から建物の損害に対して支払われる保険金は、いくらになりますか。
2. 地震保険から生活用動産（家財）の損害に対して支払われる保険金は、いくらになりますか。
3. 主契約である住宅総合保険から建物および生活用動産（家財）の損害に対して支払われる地震火災費用保険金は、合計でいくらになりますか。

《選択肢》

| | | | |
|----------|------------|------------|------------|
| ア. 0万円 | イ. 30万円 | ウ. 50万円 | エ. 100万円 |
| オ. 130万円 | カ. 185万円 | キ. 210万円 | ク. 300万円 |
| ケ. 350万円 | コ. 420万円 | サ. 600万円 | シ. 700万円 |
| ス. 900万円 | セ. 1,200万円 | ソ. 1,500万円 | タ. 3,000万円 |

【問題6】

次の1～4の記述は、「損害保険の保険金支払に関するガイドライン」について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ教えてください。

1. 損害保険会社は、事故発生時の初期対応として、事故受付時に確認済みの情報に加え、契約者等から事故等に関する追加の情報を確認し、契約者等に対し、支払対象となる可能性のある主たる保険金およびこれに付随する特約・費用保険金の内容を説明する必要があるが、保険金の支払いができない可能性がある場合にはその旨を説明する必要はない。
2. 損害保険会社は、保険契約者等が保険金（費用保険金等を含む）の請求を取り下げる意向である場合、損害保険会社において理由を具体的に確認し、取り下げ理由、確認を行った日付、方法、担当者名および確認先等の事実を確実に記録する。
3. 保険金をお支払いできないことによる苦情は、コンプライアンス部門等の関連部門で事後的に検証できる態勢を整備する必要がある。
4. お客様に対して、多岐にわたる保険金の適切な説明を行うことや適正な保険金支払を行っていくためには、損害保険会社は各種の教育・研修体制の充実を図るとともに、社員に対する教育・研修を不断に行っていく必要があるが、損害保険代理店に対する教育・研修を行う必要はない。

【問題7】

次の1～6の記述は、新種保険について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 賠償責任保険（普通保険約款）において、特約によって加重された損害賠償責任を負担することで被った損害は保険金支払いの対象とはならない。
2. 動産総合保険では、保険の対象の修繕費が保険価額を超過する場合、推定全損として全損処理をすることができる。
3. 機械保険において、工場製作または組立作業の欠陥による事故は保険金支払いの対象とはならない。
4. 組立保険において、設計図書、証書、帳簿、通貨、有価証券その他これらに準ずる物は保険の対象に含まれる。
5. 建設工事保険において、鋼構造物を主体とする組立工事は契約対象となる工事に含まれる。
6. 土木工事保険において、寒気、霜、氷または雪によって保険の対象に生じた損害は保険金支払いの対象とならない。

【問題 8】

次の1～4の記述は、「自動車保険の対物賠償保険」について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ教えてください。

1. この保険において、第三者が被保険自動車を使用することを記名被保険者が知りながら反対の明示をしなかった場合、当該第三者は許諾被保険者として取り扱われる。
2. この保険において、被保険者が損害保険会社の書面による同意を得て支出した訴訟費用、弁護士報酬、仲裁、和解もしくは調停に要した費用などの争訟費用は、支払保険金とは別に保険金額の枠外で全額支払われる。
3. この保険において、被保険者が被保険自動車の運転を誤り被保険者の父親が所有する住宅建物に衝突し、その建物の外壁を破損させた場合、その損害は保険金支払いの対象となる。
4. この保険では、被保険者が損害賠償責任の額を承認する場合、あらかじめ保険会社の承認を得る必要がある。

【問題9】

次の1～4の記述は、保険価額の評価について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 評価方法の1つである定率法は、経年減価は初めの年ほど多く、経過年数とともに減少する。
2. 耐火構造の病院、ホテル、劇場等の特殊建築物では、付帯設備費割合が総工事費に対して相当の割合に達するものがあることから、評価に際して、坪単価で計算するのではなく、資料を取り寄せたうえ計算することが望ましい。
3. 機械の評価にあたり、特に注意する事項として「機械の標準市場価格」、「使用および保守条件等による価格差」の2点があげられる。
4. 商品は転売して利益を得る目的で所有する交換材であるが、評価に際しては、販売管理費など未実現の費用および利益を含めた販売価格を基準にすることができず、再仕入原価が基準となる。

【問題 10】

次の 1～4 の記述は、損害保険契約に関する法律知識について述べたものです。
 にあてはまる最も適切なものを下の選択肢からそれぞれ 1 つずつ選び、その記号を答えてください。

1. 保険約款の作成や変更に関しては、 1 の認可または 1 への届出が義務付けられている。

《選択肢》

ア. 経済産業省長官 イ. 内閣総理大臣 ウ. 金融庁長官

2. 損害保険契約の目的（被保険利益）には、 2 が認められる。

《選択肢》

ア. 財産的利益のみ イ. 非財産的利益のみ ウ. 財産的・非財産的利益両方

3. 保険者は、保険契約者または被保険者が 3 義務違反をした場合、損害保険契約を解除することができない。

《選択肢》

ア. 告知 イ. 損害防止 ウ. 通知

4. 保険契約の法的性質のうち、 4 とは、保険者が一定の事由が生じたことを条件として保険給付を行うことを約し、保険契約者がその対価として保険料を支払うことを約する契約である。

《選択肢》

ア. 諾成契約性 イ. 射倖契約性 ウ. 有償契約性

【問題 11】

次の1～8の記述は、損害賠償に関する法律知識について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 法律上の損害賠償責任は、「不法行為責任」と「債務不履行責任」に分類されるが、それぞれの責任は成立要件が異なっており、独立して成立する関係にある。
2. 判例では、公務員が職務上、故意または過失によって違法に他人に損害を与えた場合、当該公務員は被害者に対して国家賠償法だけでなく民法の不法行為による賠償責任も負わない。
3. 数人で他人に投石し、その中の一つが当たってケガをさせた場合のように、加害者が不明であっても、「共同行為者であること」「共同行為者のいずれかによって損害が惹起されたこと」「各共同行為者が因果関係以外の不法行為の要件を満たしていること」の3要件を備えている場合は、投石行為をした全員に不法行為責任が認められる。
4. 責任無能力者の監督義務者には、託児所や幼稚園の職員など、法定の監督義務者との契約によって責任無能力者を預かる者なども該当するケースがある。
5. 土地の工作物の設置または保存に瑕疵があり、他人に損害を与え、工作物の占有者または所有者が賠償責任を負う場合で損害の原因につき他に賠償責任を負う者がいたとしても、占有者または所有者は他に賠償責任を有する者に求償することはできない。
6. 民法において、不法行為による損害賠償請求権は、不法行為の時から30年行使しないとき、時効により消滅する。
7. 製造物責任法において、製造業者等が当該製造物を引き渡した時点における科学または技術知識の水準によっては、欠陥があることを認識することが不可能であったことを当該製造業者が証明した場合、製造物責任を免れる。
8. 金銭債務の遅滞による損害賠償の額は、原則として債務者が遅滞の責任を負った最初の時点における法定利率によって定め、当事者間で約定利率を定めることもできるが法定利率を超えることはできない。

【問題 12】

次の1～4の記述は、個人情報保護法について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. この法律において、合併などの事業承継に伴い個人データの提供を受ける者は、第三者に該当しない。
2. この法律において、人種、信条、病歴等の要配慮個人情報は、人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合で、本人の同意を得ることが困難な状況であっても、本人の同意を得ずに取得することはできない。
3. この法律において、本人からの求めに応じて保有個人データを開示する場合、個人情報取扱事業者は、合理的な範囲内であっても手数料を徴収することはできない。
4. この法律において、個人情報取扱事業者は、取得時の状況から利用目的が明らかであると認められる場合、本人に利用目的を通知・公表する必要はない。

【問題 13】

次の1～4の記述は、リスクマネジメントについて述べたものです。□にあてはまる最も適切なものを下の選択肢からそれぞれ1つずつ選び、その記号を教えてください。

1. □ **1** は、リスク・ファイナンスの手法の一つである。

《選択肢》

ア. リスクの回避 イ. リスクの保有 ウ. リスクの分散

2. 地震や台風、ハリケーン等の異常災害リスクを証券化したものを、□ **2** という。

《選択肢》

ア. CAT ボンド イ. キャプティブ ウ. デリバティブ

3. 製造物責任事故予防対策（PLP）において、□ **3** の欠陥の予防対策の一つとして、原材料・部品の納入に関し、優良な納入業者を選定のうえ、納入業者への指導を強化し、原材料・部品の納入時の検査を徹底することが挙げられる。

《選択肢》

ア. 設計上 イ. 指示・警告上 ウ. 製造上

4. 財務リスクとは、企業の貸借対照表上の「資産の価値」が減少したり、「負債の価値」が増加するリスクをいい、□ **4** リスク等がある。

《選択肢》

ア. 事業中断 イ. 有形資産 ウ. 市場

【問題 14】

次の1～4の取引について、下の勘定科目・金額を用いて仕訳を行い、勘定科目・金額は下の選択肢から最も適切なものをそれぞれ1つずつ選び、その記号を答えてください。

なお、勘定科目・金額の選択肢は、必要に応じて何度使用しても構いません。

1. 家計費として、店の現金¥150,000を引き出した。
2. 商品売上代金の未収分¥400,000を小切手で受け取り、直ちに当座預金に預け入れた。
3. 現金¥500,000と備品¥300,000を出資して開業した。
4. C商店の買掛金¥400,000の支払として、¥250,000は現金で、残額の¥150,000は小切手を振り出して支払った。

《勘定科目 選択肢》

| | | | | |
|--------|----------|---------|----------|---------|
| ア. 備品 | イ. 買掛金 | ウ. 資本金 | エ. 当座預金 | オ. 借入金 |
| カ. 売掛金 | キ. 受取家賃 | ク. 支払利息 | ケ. 消耗品費 | コ. 通信費 |
| サ. 貸付金 | シ. 水道光熱費 | ス. 商品 | セ. 商品売買益 | ソ. 受取利息 |
| タ. 現金 | | | | |

《金額 選択肢》

| | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| a. 10,000円 | b. 50,000円 | c. 100,000円 | d. 120,000円 |
| e. 150,000円 | f. 200,000円 | g. 250,000円 | h. 300,000円 |
| i. 350,000円 | j. 400,000円 | k. 450,000円 | l. 500,000円 |
| m. 600,000円 | n. 700,000円 | o. 750,000円 | p. 800,000円 |